

古九谷

九谷焼は、緑、黄、紫、紺、赤の 5 色の九谷五彩と呼ばれる色彩で、大胆な上絵付けが特徴的な陶磁器である。

九谷焼の歴史は、大きく 2 つの時代に分けられる。古九谷とは、1655 年頃から 17 世紀末頃までに作られた磁器を指す。古九谷は、前田家の支援のもと、窯で作られたものである。窯が製造を中止した後、約 100 年ぶりに九谷焼が再興された。それ以降に作られたものを「再興九谷」と呼んでいる。

古九谷は現在、大きく 2 つに分類されている。色絵は五色すべてを使うので、五彩手と呼ばれることもある。色絵は素地の白地が少し見えるのが特徴である。これに対し、青手は赤を除き、他の 2～3 色だけを使い、表面を完全に覆い尽くすようにデザインされることが多い。特に、黄色を基調とした精巧な模様が青手の特徴である。

窯は規模も生産時期も限られていたので、真の古九谷は比較的少数しか残っていない。しかし、後世の陶芸家に与えた影響もあり、その色調や文様は石川県の陶芸を語る上で欠かせないものとなっている。